



▲崎村謙信 議員

▼小山陽楽 議員



青島に住んでくれるお医者さんについて

青島中学校

- ・崎村 謙信 議員
- ・小山 陽楽 議員

【質問】崎村議員、小山議員

昨年の6月までは青島にお医者さんが住んでおられて、夜や朝早く急病患者が出ると、すぐに診療所で診療していただいていたのですが、今は、お医者さんが来られるのは週2回で、診療時間は2時間30分と短く、医師不在の時に命に関わる急病患者が出た時はとても危険な状態です。

また、青島には多くの人が民泊に訪れ、その民泊で島の活性化につながっています。もし、

お医者さんがいないという理由で民泊を断る学校が増えたら島民は困ってしまいます。

過去に、深夜に体調が悪くなり、夜中に漁船を出してもらったのが気の毒だと朝まで待つていたら、病院に着いたときには手遅れだったということがありました。二度とこのようなことが起きないようにするために、青島に住んでもらえるお医者さんを探してください。そのためにも市はどんなことをしているのか教えてください。

【答弁】健康ほけん課長

青島地域は体験型旅行の受入が島の活性化につながっており、医師が不在となったことで島民の方々が不安を抱かれています。これは承知しています。青島に住んでいただける常勤医師の確保が最善の策と考え、長崎県の「ながさき地域医療人材センター」を通じて医師の募集を行っておりますが、なかなか青島に来て頂ける医師がいない状況です。

この医師確保が困難な状況の中で、青島地域における医療体制の最大の課題は、夜間の救急搬送体制の充実です。島民の皆

さんのご協力がなければ、市だけで解決できる問題ではないことから、島民の皆さんと協議を行い、少しでも安心していただける医療体制の構築を図っていきたく考えています。

青島の活性化について

【質問】崎村議員

市は青島を発展させるためどのような政策を考えていますか。

【答弁】市長

青島の人口減少を止め、活性化させるためには、若い人達を増やすための政策が最優先であると考えています。

青島には、漁業や体験観光などの産業があります。まずは、その分野での所得の向上を目指すべきと考えています。

島民の皆さんは、魚や貝などの海の資源を大切にされ、漁業を営まれています。海もきれいに守られており、宝の浜などの景観は大変素晴らしいです。

このような素材は青島の強みであり、島民の皆さんが創り、守ってこられた魅力であると思えます。この強み、魅力を更に磨き、いかに所得の向上に繋げ、そして仕事を作り出すか。

このために、平成28年10月に青島の島民全員を社員と位置付ける一般社団法人青島〇（まる）が組織化されました。島民の皆さんも危機感をもって青島〇の事業に取り組んでいただいておりますので、市といたしまして、この青島〇の事業目的が達成できるよう、連携し、島の活性化に取り組んで行きたいと考えています。

【追加提案】崎村議員

お医者さんについては、過去に中学生がマムシに咬まれ、青島の漁船と連携でなんとか手当が間に合ったという事例がありました。できるだけ早くお医者さんに住んでもらいたいと思います。

青島の活性化については、千年続く漁業を次世代に残す目標に海の資源の保護活動をしています。また、青島〇の活動は私たちも社員としてできることは協力していきたいと思えます。長い将来ふるさと青島での生活が続けられるように今以上の支援をお願いします。

■松浦市の地域おこしについて
調川中学校

- ・中山 徹 議員
- ・松本 梨乃 議員

【質問】中山議員
地域おこしによる松浦の魅力発信は非常に重要です。

松浦市で地域おこしとして取り組んでおられることや体験型旅行事業の経済効果などを教えてください。

【答弁】食と観光のまち推進課長
松浦市内では、「松浦水軍まつり」の他に、「おさかなまつり」や「福島ふるさと祭り」、「鷹島モンゴルまつり」など、それぞれの地域で長く続いているお祭りや、「松浦子ども博」、「志佐の夜市」



▲中山 徹 議員

▼松本梨乃 議員



などの新たなイベントなども行われています。

これらは、地域を元気にしたいという熱い思いを持った人たちが、実行委員会などを立ち上げて実施されており、松浦の知名度を上げるといった効果をもたらしています。

一方、特色を活かした地域おこしとして、青島地区で漁業と観光業の活性化に向けて取り組んでいる「青島〇」という事業や、上志佐地域の「ヤマメの里づくり事業」、また、「体験型修学旅行事業」などがあります。この体験型旅行事業の平成29年度実績は、156校、約2万7千人の受け入れで、体験代、宿泊代、引率の先生やドライバーの宿泊代、それに弁当代やフェリー代など1年間の直接的な経済効果額は、約3億4千万円となっています。

【質問】松本議員

松浦市を「アジフライの聖地」というアナウンスは、市内各所でアジフライの幟が立ち、ガイドブックへの掲載など、取り組みが順調に進んでいると感じています。アジフライの聖地を

目指す運動はどのように拡大していく予定なのかを知りたいです。

【答弁】食と観光のまち推進課長

今年8月から始めたばかりで、各店舗の売り上げの伸びは把握できておりませんが、確実に増加していると感じています。

今後は、来年の春に「アジフライの聖地」の宣言ができるよう、更なるPRとマップのリニューアルなどに向けて取り組んで参ります。

提案いただいたコンビニエンスストアでの販売については、昨年の6月から12月までの間、市内の水産加工会社のアジフライが期間限定でコンビニエンスストアのレジの横での販売をされています。また、同様の販売に向けて、現在、計画を進められているとお聞きしているところでです。

【質問】中山議員、松本議員

現在、アジと並んで松浦の魚を代表するサバをもっとアピールできないかと考えてました。旬サバの缶詰を広く認知してもらうために提言をします。(プレゼン形式で発表)

・缶を宝石箱風にする。
・松浦の名所をパッケージに載せる。
・箱にQRコードをつけて松浦のいいところを紹介する。

【答弁】市長

素晴らしい提言ありがとうございます。

旬サバ缶は、一般社団法人まつうら観光物産協会が販売されています。今の提案内容をそっくりまつうら観光物産協会にお示しし、その中で、提案にあったアイデアも紹介したいと思えます。

旬サバ缶は、まつうら観光物産協会、松浦駅で買うことができますが、市民の方々もなかなか存じではないということも併せてまつうら観光物産協会にお伝えしたいと思います。

